こうちミュージアム
ネットワーク通信
2018 VOL.16

目次 CONTENTS

●土佐の文化財
日本遺産「森林鉄道から日本一のゆずロードへ」……P1
●随想「島が丸ごと博物館 持続可能な里海づくり」……P2
● NEWS「オーテピア開館目前！」……P2
●会員紹介「香美市立美術館」「高知県文化財団」
「高知県立高知城歴史博物館」「豊永郷民俗資料館」……P3
●特集：リニューアル「キラメッセ室戸 鯨館」
「龍馬の生まれたまち記念館」「ジョン万次郎資料館」
「高知県立坂本龍馬記念館」……P4
●コラム：手紙発見「寺田寅彦書簡発見！」
「新発見の中岡慎太郎書状について」……P5
●活動報告……P6
●時の話題
「絵金さんのちから　～絵金芝居絵屏風返還のこぼれ話～」‥P6
●みんなの情報掲示板……P7
●会員一覧……P8

土佐の文化財

▲森林鉄道軌道跡とゆず畑（撮影：山下浩文）

◈日本遺産「森林鉄道から日本一のゆずロードへ」

―魚梁瀬森林鉄道が日本遺産になったわけではありません、―中芸地域が日本遺産になったという言い方も正確ではありません。

日本遺産認定されて以来、この種の説明をしなければならない場面が何度もありました。建物だったり、自然だったり、地域だったり、具体性を有する何かが認定の対象ではないところが案外分かりづらいところです。

では何が日本遺産なのか？　認定する文化庁は、「地域の歴史的魅力や特色を通じて　我が国の文化・伝統を語るストーリー」としています。

平成29（2017）年4月、高知県単独としてはじめて日本遺産に認定されたのは、「森林鉄道から日本一のゆずロードへ―ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化―」と題された、産業の変遷を軸に、中芸の自然、歴史、文化を描いた約2000字のストーリーです。

日本遺産のユニークさは、そのストーリーに描かれた世界を守り、継承することが目的ではなく、活用して地域活性化を目指せという点にあります。認定はゴールではなく、スタートなのです。日本遺産認定から地域活性化へ。挑戦しがいのある、興味深いテーマではないでしょうか。

（特定非営利活動法人地域文化資源ネットワーク　中村茂生）

随想

島が丸ごと博物館 持続可能な里海づくり

特定非営利活動法人 黒潮実感センター
センター長 神田 優

高知県の西南端にある周囲3．9km、人口400人ほどが暮らす小さな島、柏島。柏島の海は南からの澄んだ暖流黒潮と、瀬戸内海から豊後水道を南下してくる栄養豊富な潮とが混じり合うことで、多種多様な海洋生物の宝庫となっている。この海にはその数日本一の千種を超える魚類が生息している。

特定非営利活動法人黒潮実感センターは柏島の豊かな自然環境だけでなく、そこに住む人たちの暮らしも含めて、「島が丸ごと博物館」と捉え、持続可能な里海づくりを目指した活動を行っている。

「里海」この言葉に私は「人が海からの豊かな恵みを享受するだけでなく、人も海を耕し、育くみ、守る」という想いを込めた。

持続可能な「里海」の実現に向けてセンターでは、1．自然を実感する取り組み、2．自然を活かした暮らしづくりのお手伝い、3．自然と暮らしを守る取り組みを行っている。

その一つに「海の中の森づくり」がある。平成12（2000）年、アオリイカの漁獲の減少もあり漁業者とダイバーとのコンフリクトが生じ、それを解消しようと翌年から漁業者とダイバーが協働し、海中にウバメガシやヒノキの間伐材で作った人工産卵床を設置。全国一の成果をあげることができた。その後この活動を地元の子ども達の環境学習に取り入れ、さらにアオリイカ減少の要因の一つである産卵場としての藻場の減少を理解しようと、森川海のつながり学習を展開。森林組合も協力してくれるようになった。今年で18年目を迎える「海の中の森づくり」は、海と人との関係性から生まれてきた取り組みである。自然を守ろうという立場と、利便性を求める立場があり、どうすれば自然に負荷をかけずにそれらを両立できるのか？常に模索しながら走り続けている。

島が丸ごと博物館　大月町柏島

平成29（2017）年9月、イオン環境財団主催の第5回生物多様性日本アワードグランプリを受賞することができた。自然環境に恵まれ生物多様性の宝庫である柏島も、決して手つかずの自然があるわけではない。この海は人のくらしと共にあった。人もまた自然の一部であると考え、人と人、人と自然との関係がどうあるべきかを常に考えて行動し、その合意形成に努めることが重要だと考えている。

活動を始めた平成10（1998）年、私は柏島を島が丸ごと博物館と捉え、この地に「海の牧野（博物館）」を作りたいと願い、様々な取り組みを行ってきた。アカデミックな調査研究を元に環境教育を充実させ、島の環境保全にも寄与したいと思った。しかし、現実にはここは単なる海という自然のフィールドだけではない。人の生活の場でもある。人と海との関係性をもっと深く学ぶために、活動開始から20年目の節目に当たる今年、「里海教育」に力を入れていこうと考えている。それは柏島だけの話ではなく宿毛湾からさらには高知県全県を視野に展開しようと考えている。全国に先駆けた里海教育の拠点として、これから第二ステージに進む所存である。

NEWS

●オーテピア開館目前！

オーテピア高知図書館（高知県立図書館・高知市民図書館本館）、高知声と点字の図書館、高知みらい科学館の3施設からなる「オーテピア」は、平成30（2018）年7月24日に開館します。各施設では、開館に向けて着々と準備を進めています。

高知県立図書館は、平成29（2017）年12月28日に閉館セレモニーを行いました。オーテピア開館までの間、休館となります。高知市民図書館本館は、平成30（2018）年6月30日まで、追手筋の仮設図書館で開館しています。

オーテピア高知図書館は、約140万冊の本が読めるだけでなく、県民の皆様の調べものの手助けをするレファレンス・サービスを充実させ、皆様の生活や仕事に役立つ図書館を目指しています。

また、高知みらい科学館の開館に伴い、平成30（2018）年2月11日、高知市子ども科学図書館が閉館しました。高知みらい科学館は、子ども向けの科学教室のほか、プラネタリウム投映やサイエンスカフェなどを行い、中高生や大人も楽しめる科学館を目指します。

オーテピアで待っています！

（高知みらい科学館　岡田直樹）

会員紹介

香美市立美術館

香美市立美術館は、土佐山田の総鎮守・八王子宮西隣にある石の風車が目印の、プラザ八王子2階に位置しています。平成6（1994）年に、福祉・保健・美術館の3つを合わせた複合施設として出発しました。高知県に縁のある作家の作品を主に収蔵しており、年間5～6回の企画展を開催しています。その中でも、平成25（2013）年から県内若手作家の発表の場である「香美アートアニュアル」を継続していることや、収蔵品展に合わせて香美市内の小学校全7校に出前授業を行い、その成果を展示室内で発表していることなど、ユニークな活動を展開しています。他にもアトリエ事業で年6回の講座を用意し、子どもから大人までの幅広い教育普及活動により、市民の方々に美術を身近に感じていただける機会を設けています。こうした活動を通して、地域の文化・芸術の振興に寄与し、地方からの文化発信を目指しています。近年はあけぼの街道の開通により、高知市からの利便性が向上し、市外からの利用も増加しています。これからも、より魅力的な企画を提示していきたいと思っています。

（香美市立美術館　都築房子）

高知県文化財団

高知県文化財団は多くの県民の方に文化芸術に親しんでいただくことを目指し、文化芸術事業を県内各地で開催しています。また、文化事業への共催・後援や助成など県内文化団体への支援も行っています。

毎年秋に開催される高知県芸術祭の事務局を担っており、平成29（2017）年度は「日露交歓コンサート2017」「文芸賞」などを実施し、助成事業「KOCHI ART PROJECTS」では12のアートプロジェクトを採択・実施しました。

また年間を通して、子どもを対象としたワークショップやコンサートを行う「bunkazaidan こどもクラブ」などの取り組みも行っています。

平成29（2017）年5月には高知県が策定した「高知県文化芸術振興ビジョン」を推進するためのアーツカウンシル担当を配置し、文化芸術に関する調査研究、県民からの各種相談対応、様々な場で文化芸術に触れる機会の創出を行っています。今後は施設やジャンルの枠も飛び越え、横断的な事業を展開したいと思っておりますのでご要望や相談などありましたらいつでもご連絡ください。

（高知県文化財団　齋藤　努）

高知県立高知城歴史博物館

高知城の麓に、平成29（2017）年3月、高知県立高知城歴史博物館が開館しました。山内家資料を中心とする収蔵資料は、以前土佐山内家宝物資料館で保存・公開を行ってきましたが、建物の老朽化による保存環境の悪化、また鏡川に隣接していることから浸水の恐れが危惧されてきました。そのため新しい博物館は、高度な保存環境の確保はもちろん、地震や津波等の自然災害に強い博物館を目指して建築されました。

当館に与えられた使命は5つ「保存と継承」「調査研究」「展示と情報発信」「学習の場への還元」「地域振興・観光振興への寄与」です。その一つ「保存と継承」には、山内家資料に限らず、地域の歴史資料もその対象に含まれます。県内に残る資料を少しでも多く後世に伝えるため、当館が蓄積した整理や保存の専門的な知識や技術を地域に提供し、支援していくことが、当館に課せられた重要な役割です。

当館には、保存活動を専門に行う資料保存修理室が設けられています。ここを基地にして、所蔵者である地域住民や行政、県内各地の文化施設などと連携・協力を図りながら、県全体の資料保存の向上に寄与していきたいと考えています。

（高知県立高知城歴史博物館　田井東浩平）

豊永郷民俗資料館

豊永郷は大豊町の北東部に位置する地域です。昭和30（1955）年には大豊町の人口は2万人を超えていました。現在は3500人台の過疎の中山間地域です。人口が減少する山間地域ですが、森林面積率84％の高知県において、山の文化を考えずに、土佐の文化は考えられません。豊永郷民俗資料館では、昭和30年代から豊永郷で集められた生活用具や生産道具を収蔵展示しています。豊永郷の人々の生活をモデルとして、山の文化の保存、活用をおこなっています。

私たちは自然から恵みを得て生活をする中で、道具を使い技術を発展させることで更に多くの恵みを得てきました。道具と技術の進歩は、余剰を生み、余剰は流通、経済、厚生を充実させ、あらゆる社会組織を作り、社会を形成してきました。当館では、人と自然の間にある、道具・技術・流通・社会組織・人の価値観や世界観を文化と捉え展示をおこなっています。私たちが生存する原点である人と自然の関係、また道具と技術の関係を中心に展示をおこなっています。平成29（2017）年度には、建物と展示の相乗効果を認めて頂き「2017年グッドデザイン賞」、また「審査員が選ぶ私の一品」の賞を受賞いたしました。

豊永郷民俗資料館は、学生と共に学ぶ場であり、また社会に貢献できるような新たな発想が生まれる場であるよう、活動を続けていきます。

（豊永郷民俗資料館　釣井龍秀）

特集 リニューアル

平成29～30（2017～2018）年、こうちミュージアムネットワーク会員館リニューアルの話題が相次ぎました。各館の最新情報をお伝えします。

キラメッセ室戸 鯨館「展示リニューアルについて」

鯨館は、平成8（1996）年に道の駅キラメッセ室戸に、室戸における鯨文化の資料館としてオープンされ、建物の老朽化また資料展示の不変性もあり、幕末維新博事業として県と市の補助金により、平成29（2017）年3月4日リニューアルの運びとなりました。

館内は、幕末から明治維新にかけて室戸で栄えた古式捕鯨について、貴重な資料の展示と、デジタルコンテンツ満載の資料館となっています。

「室戸とクジラのものがたり」の上映とクイズを通じて学べるワークショップルームや資料や図書のある閲覧室を、また水平線まで続く海を一望できる展望デッキを開設。一方で、室戸古式捕鯨絵図が動き出すデジタルアートシアターや勢子舟に乗って360度映像体験のできるバーチャルリアリティー（VR）、また鯨館内限定アプリ（AR）を利用して携帯電話でクジラと一緒に記念撮影ができるという体験型の施設でもあります。

館内に入ると、目の前に実物大のマッコウクジラの模型や、ザトウクジラ・マッコウクジラの骨格標本が皆さんをお迎えしています。

ぜひ、室戸へお越しの際はお寄りください。

（キラメッセ室戸 鯨館　坂井智空）

高知市立龍馬の生まれたまち記念館「五つの新コンテンツを導入」

龍馬の生まれたまち記念館は、平成29（2017）年に開幕した「志国高知 幕末維新博」に合わせ、VR機器等、五つの新コンテンツを導入しました。その中の二つをご紹介します。

まずは、「バーチャル4面シアター」です。ここでは、四方の壁がスクリーンとなり、龍馬の青少年時代を舞台としたCGアニメを楽しむことができます。ストーリーが360度に展開され、その中央にいるかのような感覚は、迫力満点。さらに、体験者の行動（鳴子を使います）によってその後の展開が変わる場面もあり、まさに幕末にタイムスリップしたかのような臨場感を味わえることでしょう。

次に、「動くお城下今昔マップ」を紹介します。これは、テーブル上に江戸時代と現代の地図が映し出されるデジタル展示です。地図上にある砂時計を動かすことで、過去と現在が相互に入れ替わり、その中のマークをタッチすると、関連施設や古写真の画像を見ることができます。

龍馬や幕末史といえば、難しく感じるかもしれませんが、こうしたコンテンツを通じて親しんでいただくきっかけとなればと思います。ご家族やご友人と、ぜひお越しください。

（高知市立龍馬の生まれたまち記念館　森本琢磨）

ジョン万次郎資料館「好奇心が維新の扉を開く」

この度、ジョン万次郎資料館は「好奇心が維新の扉を開く」をテーマにリニューアル。平成30（2018）年4月1日にオープンします。

幕末の偉人の中でも数奇な運命に試され、それを勇気と好奇心で乗り越えてきたジョン万次郎。改装後は、そんな彼の生涯を以前よりも楽しく、そして深く知っていただけるような展示に変化します。

展示は木目調の自動ドアを入った所から開始。万次郎のふるさと中浜を通り過ぎ、展示室に入ると漂流の展示が始まるようになっています。そこからトリックアートや、プロジェクションマッピングなどの体感できるアトラクションを交えながら、従来の展示品を以前よりも万次郎の生涯を理解しやすいように配置しました。幕末志士たちに新しい知識を伝えた彼ならではの新鮮でドラマティックな展示へと変化した当館をぜひご覧ください。

（土佐清水市観光協会　中平 彩）

高知県立坂本龍馬記念館「リニューアルと新館建設」

龍馬記念館は昭和60（1985）年、龍馬生誕150年を記念し、高知商工会議所青年部や高知県商工会青年部連合会など12の県内青年グループが、6年半がかりで募金を集めて建設してくださり、平成3（1991）年に開館しました。ガラス張りの開放的な建物で、龍馬のイメージにピッタリである一方、資料の保管や展示には苦労していました。

そのため、今回のリニューアルと新館建設では、新館と本館（既存館のこと）で機能を分担させ、新館は安心して資料を保管・展示できる施設、本館はこれまでの長所を存分に生かして、明るく楽しく学べる施設を目指しました。

新館は、地上2階、地下1階建ての建物で、1階はシアターコーナーとホールを備え、地下1階は機械室や倉庫、2階が常設展示室と企画展示室、ジョン万次郎展示室となっています。また、本館地下2階は、幕末写真館として120人ほどの写真を展示しており、こちらも見応えのある展示となっています。

ハード面はこれで充実しますので、今後はより一層ソフト面の充実に力を注がなければなりません。今後の成長にご期待ください。

（高知県立坂本龍馬記念館　三浦夏樹）

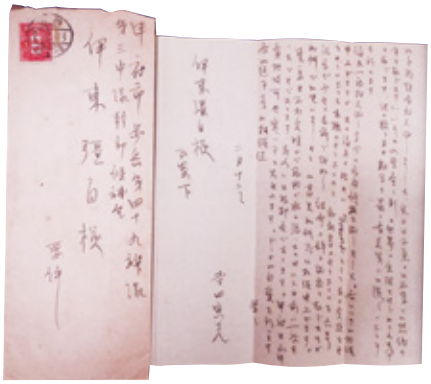
コラム　手紙発見（テガミハッケン）

寺田寅彦書簡発見！

平成29（２０１７）年、伊東彊自（きょうじ）に宛てた寺田寅彦の書簡９通が高知県立文学館に寄贈されました。うち２通は全集未収録のものです。書簡は昭和７（１９３２）年から寅彦が亡くなる昭和10（１９３５）年までの短い期間のものですが、文面からは弟子に対する細やかな配慮が読み取れます。また、まとまった数の資料が見つかり、寅彦の故郷である高知県に寄贈されたことの意義は大きいと思います。

寺田寅彦は「天災は忘れられたる頃来る」の言葉で知られる物理学者であり、夏目漱石門下の文学者でもあります。手紙を受け取っている伊東彊自は山形県出身の寅彦の弟子であり、東京帝国大学を卒業後に航空研究所の寅彦の研究室に10カ月ほど在籍、寅彦の指導によって雨滴の研究を行い、のちに気象庁や東海大学などに勤務しました。寅彦に師事したのは短い間でしたが、生涯忘れられない影響を受けたということです。

伊東の回想には、寅彦が就職の世話をしてくれたことや、冗談混じりの励ましなどを記しています。寅彦の門下には優秀な研究者が多く輩出されましたが、そうした背景には寅彦が弟子を思いやる気持ちがあったと言えるでしょう。



伊東彊自宛寺田寅彦書簡（昭和7年2月13日）

そして、そのことは今回寄贈いただいた手紙からも読み取れます。新発見の書簡である昭和７（１９３２）年２月13日の手紙には、まず冒頭に亡くなった伊東の母へのお悔やみが綴られ、甲府の旧陸軍歩兵隊に入営した伊東に対しての激励、伊東の論文についてのアドバイスが綴られ、弟子に対する寅彦の温かい気持ちを感じることができます。また寒がりだった寅彦らしく、甲府の寒さへの気遣いで締めくくられているのも微笑ましいです。

当館は平成29（２０１７）年11月２日に開館20周年を迎えました。この書簡は20周年を記念して開催した同年企画展「文学館の文化祭展」にて展示し、好評をいただきました。今後も展示の機会を作って、多くの方に見ていただきたいと思います。

（高知県立文学館　川島禎子）

新発見の中岡慎太郎書状について

平成29（２０１７）年２月下旬、志国高知幕末維新博関連企画「中岡慎太郎『倒幕』の決意」展開催のための資料調査で、京都大学附属図書館が所蔵する幕末の志士たちの書状類を貼り交ぜた屏風を調査した際、中岡慎太郎の書状を発見しました。

寸法は縦16．2×横40．8（単位はcm）。紙本墨書。差出人は「横山若卒」。宛名は「橋八老翁」。

所蔵館がつけた資料名は「横山ヨリ橋八ニ送ル書簡２日」。

「横山」とは慎太郎の変名「横山勘蔵（よこやまかんぞう）」、「橋八」とは長州藩士品川弥二郎の変名「橋本八郎」のことです。

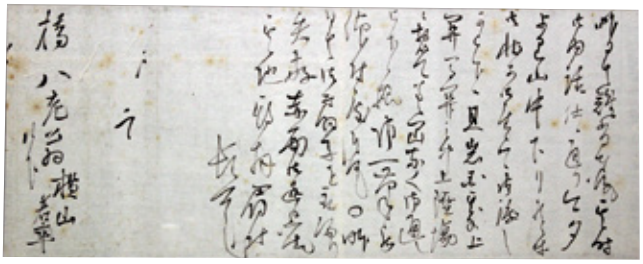
手紙の内容は「山中」というものが長州へ下るので、岩国、上関、馬関など長州領内を支障なく通行するため、一筆したためてほしい、と品川に依頼するものです。時期は、品川が在京していた、慶応２～３年頃と思われます。

「山中」とは、岩倉具視と交流のあった、三河出身の志士「山中献（やまなかまつる）」と思われ、慶応２（１８６６）年３月29日付で品川に送った慎太郎書状にも登場します。

手紙の内容は事務連絡的なものですが、新たに分かったことが一つあります。

それは、慎太郎は身元を隠すため、変名だけでなく、筆跡までも使い分けていたことです。

現存する慎太郎の手紙は、行書もしくは草書で、伝えたい事柄の箇所は文字が太くなる傾向があります。しかし、新発見の手紙は、全体的に線が細く、かな文字を意識したような、草書体で書かれています。この筆跡は、筆者が、平成19（２００７）年、京都市岩倉の對岳文庫（たいがくぶんこ）で発見した「岩倉具視関係資料」（現在、京都市歴史資料館蔵）の「勘蔵書状　岩倉具視宛　慶応３年９月10日」と全く同じです。これが鑑定の決め手になりました。



「横山ヨリ橋八ニ送ル書簡2日」（京都大学附属図書館蔵）

最後に、今回の発見で、慎太郎の手紙の現存数は32通（書いた数は全部で61通）。そのうち「横山勘蔵」名で書いたものは３通現存することが確認されました。

（中岡慎太郎館　豊田満広）

こうちミュージアムネットワーク研修会
講演「地域と美術館」／高知みらい科学館の施設見学会

高知県立高知城歴史博物館で開催された今回の研修会では、平成30（2018）年3月末で高知県立美術館学芸課長を退任する川浪千鶴氏と、「最後の県立美術館」とも言われている鳥取県立美術館の設立の準備にあたっている鳥取県立博物館学芸員・赤井あずみ氏の2名を招き、「地域と美術館」をテーマに、それぞれの住んでいる地域に根差した活動の具体的な事例報告と対談が行われた。双方向的な関係が想定できる「地域と美術館」。川浪氏からは高知県立美術館で勤務した7年弱にわたるマネージメントの経験に基づき、「美術館から地域へ」の視点からお話しいただいた。対する赤井氏からは博物館以外にもさまざまな地域アートの取り組みに携わってきた実績をふまえて「地域から美術館へ」の視点を提示していただいた。

川浪氏の在任中に開催された県立美術館の企画には、それぞれ「県立」の美術館として美術館が地域に対して負っているミッションが定められており、美術館という特殊な場を駆使してどれほど地域に接近することができるのか、美術館だからこそなすべき仕事とは何かということを考えさせられた。それとは対照的に、赤井氏の報告は美術館の外での活動を博物館、そして未来に完成する美術館の使命として組み込んでいく方法について、学ぶことの多い内容であった。

また施設見学として平成30（2018）年7月にオープンを予定しているオーテピア・高知みらい科学館の内部を見学した。1階の入口に入るなり、音声案内が響く。これは目の見えない人のための施設案内サービスだ。このほかにもトイレの大きく分かりやすい標識や、プラネタリウムの取り外せる座席（車椅子を入れるためのもの）など、ユニバーサルデザインを大々的に取り入れた施設になっている。展示室、高知県唯一のプラネタリウム、収蔵庫のほか、小中学生の授業に使える部屋などの普及面でのバックアップも充実しており、地域の科学館としてこれからの意欲的な活動に期待が高まった。

（高知県立美術館　中谷有里）

川浪氏と赤井氏の対談。参加者からは博物館外のスペースを活用した赤井氏のパワフルな取り組みに関してさまざまな質問が出た。

平成29（2017）年度活動報告

【企画調整部会】
・総会　平成29年6月16日

【研修教育普及部会】
・情報交換会（6月16日）
①「キラメッセ室戸鯨館リニューアルについて」
坂井智空（キラメッセ室戸鯨館）
②「四万十市立郷土資料館リニューアルについて」
川村慎也（四万十市教育委員会）
③「安岡家住宅修復について」
松村信博（香南市文化財センター）
④「日本遺産認定　魚梁瀬森林鉄道」
中村茂生（特定非営利活動法人 地域文化資源ネットワーク）
・講演「地域と美術館」（3月9日）
「ミュージアム・マネジメントの現場から―高知県立美術館での6年間」
川浪千鶴（高知県立美術館）
「ミュージアムが地域と向き合うこと」
赤井あずみ（鳥取県立博物館）
・見学会「高知みらい科学館」（3月9日）
・「こうちミュージアムネットワーク専門的職員名簿2017」作成
・ホームページの更新
・高知小津高等学校SSH事業への協力
・高知市広報『あかるいまち』コラム「歴史万華鏡」リレー連載

【地域資料調査部会】
・施設見学・意見交換会「芸西村文化資料館・筒井美術館」（12月2日）

【会報誌編集担当者会】
・会報誌16号編集

【あり方検討委員会】
・平成29年12月13日

【新入会員】（平成29年5月～平成30年3月）
・芸西村文化資料館・筒井美術館
・高知みらい科学館
・安田まちなみ交流館・和

時の話題
「絵金さんのちから～絵金芝居絵屏風返還のこぼれ話～」

朝からざあざあ、絵金の芝居絵屏風5点が7年ぶりに赤岡に帰ってきたのはそんな雨の日。平成29（2017）年4月17日のことでした。

県外への貸出時に起こってしまった燻蒸事故。所蔵者の方々をはじめ、尽力下さった方々が集まって、東京文化財研究所らの元で変色箇所の修理を終えた屏風絵の帰りを今か今かと待っていました。しかし雨では帰ってきた屏風絵をベストの状態で迎えられません。なぜ今日に限って、そんな焦りを含んだ呟きが聞こえるようでした。

トラックがまもなく到着という時。空には雨雲、ところがピタリと雨が止んだのです。全員が驚きを隠せないまま、この機を逃すまいと慎重に、でも急いで屏風絵を収蔵庫へ収めました。「絵金さんが雨を止ましたがよ。」そうあっけらかんと言ったのは、絵金とともに暮らしてきた町の方。絵金が雨を止ませられるなんて当たり前、その一言でなぜか私たちは納得できてしまったのです。

〝絵金さんが雨を止ました日〟そんな少し特別な日に帰ってきた屏風絵は、見違えるほど美しく、しかし元通りではありません。僅かずつ戻っていく姿を見守りながら再発防止を訴えること、それが絵金さんのために私たちにできることなのです。

（絵金蔵　吉川琴子）

みんなの情報掲示板

こうちミュージアムネットワーク会員から寄せられた情報や近況をお知らせします。

■絵金蔵オリジナルスタンプ

赤岡に残る23枚の芝居絵屏風に描かれている人物をスタンプにしちゃいました。

絵金を身近に感じてもらいたいという思いから生まれたこのスタンプ、おどろおどろしいけれど可愛らしく、意外に使いやすいと好評です！　売り上げの一部は絵金文化発信事業に使用させて頂く予定で、絵金文化の更なる躍進にも一役買っています。LINEストアにて「絵金蔵」で検索。クリエイターズ内にて50コインで販売中。

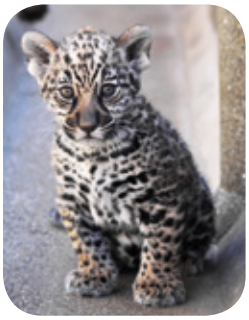
いつものLINEの会話に高知の文化を漂わせてみてはいかがでしょうか。

（絵金蔵　福原明理）

■ジャガー　24年ぶりに誕生

わんぱーくこうちアニマルランドで、24年ぶりにジャガーが生まれました。生まれた個体の名前は『ハク』、平成29（2017）年12月6日生まれのオスです。母親の『葉月ココ』の愛情をたっぷり注がれ、元気いっぱいにスクスクと育っています。初めての子育てに奮闘する母親の心配をよそに、ハクはマイペースでやんちゃに遊びまわっています。日々成長していくかわいらしい姿を見ることができるのは今だけです。公開時間については成長するにつれて変わりますので、ホームページなどで確認の上、会いに来てくださいね！

（わんぱーくこうち　山崎由希）



■ビントロング誕生！

平成29（2017）年11月23日、ビントロングに双子が誕生しました。ビントロングは食肉目ジャコウネコ科でインド南東部からインドシナ、マレー半島、スマトラ、ボルネオ、パラワンなどに生息しています。体重9～15kg、体毛は黒く、樹上生活する夜行性の動物です。当園では雄の「ソルト」と雌の「ケチャップ」の間に平成28年に「ポンズ」が生まれていますが、それに続き2度目の繁殖です。今回子どもは2頭で、愛称を公募し、「ポップ」と「コーン」に決定しました。

（高知県立のいち動物公園　牛腸典代）

■高知家の電子図書館

高知県立図書館では、電子図書館サービスをはじめました。パソコンやスマートフォンから本を読むことができます。

利用には申込みが必要です。高知県内在住・在勤・在学の方はどなたでも登録できます。郵送申込み（〒780－0842高知市追手筋2－1－1オーテピア4階事務室　電子書籍担当宛）を受け付けています。

利用できる電子書籍は約2500タイトル。24時間どこでも利用できるので、図書館から離れた場所でも、おでかけ日和でなくても、いつでも本を借りることができます。（高知県立図書館　久保田　萌）

■アンパンマンミュージアム400万人達成

やなせたかし記念館アンパンマンミュージアムは、去る平成29（2017）年12月30日に、平成8（1996）年7月の開館からの入館者数が累計400万人を達成しました。当日は、法光院晶一香美市長立ち会いの元、記念セレモニーが開催されました。400万人目となったのは、午前11時過ぎに入館された千葉から高知市の実家に帰省中のご家族でした。ご家族には、やなせうさぎとアンパンマンから花束と記念品の贈呈があり、最後に記念撮影が行われました。

（やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団　仙波美由記）

■四万十市立郷土資料館リニューアル一部オープン

四万十市立郷土資料館では、「志国高知幕末維新博」を契機にリニューアルを進めているところですが、平成30（2018）年3月10日より1階と6階が一部オープンしました。

1階展示室では、川とともに生きてきた地域の文化や歴史を紹介しています。6階展望室からは中村の街が一望できます。全館リニューアルオープンは平成31（2019）年2月を予定しています。

四万十市立中央公民館では、平成30（2018）年6月24日まで、「中村支藩の成立と発展」をテーマに幕末維新博の通史展示第Ⅳ期を開催しています。ぜひ足をお運びください。

（四万十市教育委員会生涯学習課　清水美保）

こうちミュージアムネットワークHPのURL変更のお知らせ

こうちミュージアムネットワークHPのURLがhttp://moak.jp/network/konet_home.htmlに変わりました。
『こうちミュージアムネットワーク通信』バックナンバーも閲覧できますので、どうぞご利用ください。

●こうちミュージアムネットワーク　会員一覧●

（団体会員のみ）

名　　称	〒	住　　所	電　話	FAX	HP	休 ※は年末年始等特別休館日あり
安芸市立書道美術館	784-0042	安芸市土居 953- イ	0887-34-1613	0887-34-1613	×	月（祝日開館）※
安芸市立歴史民俗資料館	784-0042	安芸市土居 953- イ	0887-34-3706	0887-34-3706	○	月（祝日開館）※
いの町紙の博物館	781-2103	吾川郡いの町幸町110-1	088-893-0886	088-893-0887	○	月（祝日の場合は翌日）※
いの町立吾北中央公民館	781-2401	吾川郡いの町上八川甲2010	088-867-2133	088-867-2773	×	日祝 ※
絵金蔵	781-5310	香南市赤岡町 538	0887-57-7117	0887-57-7117	○	月（祝日の場合は翌日）※
大方あかつき館（上林暁文学館）	789-1931	幡多郡黒潮町入野 6931-3	0880-43-2110	0880-43-0222	○	木祝・月末金 ※
オーテピア高知図書館	780-0842	高知市追手筋 2 丁目 1-1	088-823-4946	088-823-9352	○	月（祝日開館）、第3金 ※ 2018年7月24日開館予定
越知町立横倉山自然の森博物館	781-1303	高岡郡越知町越知丙 737-12	0889-26-1060	0889-26-0620	○	月（祝日の場合は翌日）※
海洋堂かっぱ館	786-0322	高岡郡四万十町打井川 685-1	0880-29-3678	0880-29-3679	○	火（祝日の場合は翌日）※
海洋堂ホビー館四万十	786-0322	高岡郡四万十町打井川 1458-1	0880-29-3355	0880-29-3356	○	火（祝日の場合は翌日）※
香美市立美術館	782-0041	香美市土佐山田町 262-1 プラザ八王子 2F	0887-53-5110	0887-53-5498	○	月（祝日の場合は翌日）※
香美市立やなせたかし記念館	781-4212	香美市香北町美良布 1224-2	0887-59-2300	0887-57-1410	○	火（祝日の場合は翌日）※
香美市立吉井勇記念館	781-4247	香美市香北町猪野々 514	0887-58-2220	0887-57-5995	○	火（祝日の場合は翌日）※
キラメッセ室戸鯨館	781-6833	室戸市吉良川町丙 890-11	0887-25-3377	0887-24-5000	○	月（祝日の場合は翌日）
芸西村文化資料館・筒井美術館	781-5701	安芸郡芸西村和食甲 1262	0887-33-2400	0887-32-2014	○	月（祝日開館）※
高知県文化財団	781-8123	高知市高須 353-2 高知県立美術館内	088-866-8013	088-866-8008	○	土日祝 ※
高知県文化振興課	780-8570	高知市丸ノ内 1-2-20	088-823-9790	088-823-9296	○	土日祝 ※
高知県立足摺海洋館	787-0450	土佐清水市三崎字今芝 4032	0880-85-0635	0880-85-0650	○	12 月第 3 木
高知県立高知城歴史博物館	780-0842	高知市追手筋 2-7-5	088-871-1600	088-871-1619	○	無休
高知県立坂本龍馬記念館	781-0262	高知市浦戸城山 830	088-841-0001	088-841-0015	○	2018年4月21日開館予定
高知県立大学総合情報センター図書館	780-8515	高知市永国寺町 2-22	088-821-7129	088-821-7130	○	日祝・第 1 水 ※
高知県立のいち動物公園	781-5233	香南市野市町大谷 738	0887-56-3500	0887-56-3723	○	月（祝日の場合は翌日）※
高知県立美術館	781-8123	高知市高須 353-2	088-866-8000	088-866-8008	○	※
高知県立文学館	780-0850	高知市丸ノ内 1-1-20	088-822-0231	088-871-7857	○	※
高知県立埋蔵文化財センター	783-0006	南国市篠原 1437-1	088-864-0671	088-864-1423	○	土・展示期間以外の日祝 ※
高知県立牧野植物園	781-8125	高知市五台山 4200-6	088-882-2601	088-882-8635	○	※
高知県立歴史民俗資料館	783-0044	南国市岡豊町八幡 1099-1	088-862-2211	088-862-2110	○	※
高知市生涯学習課	780-8529	高知市九反田 2-1 かるぽーと 8F	088-821-9215	088-821-9217	○	日月祝 ※
高知市春野郷土資料館	781-0304	高知市春野町西分 340	088-894-2805	088-894-2812	○	月祝・20日（9月より「月祝・第3金」に変更）※
高知市民権・文化財課	780-8010	高知市桟橋通 4 丁目 14-3	088-832-7277	088-831-3378	○	月（祝日の場合は翌日）※
高知城	780-0850	高知市丸ノ内 1 丁目 2-1	088-824-5701	088-824-9931	○	※
高知市立自由民権記念館	780-8010	高知市桟橋通 4 丁目 14-3	088-831-3336	088-831-3306	○	月（祝日の場合は翌日）※
高知市立龍馬の生まれたまち記念館	780-0901	高知市上町 2 丁目 6-33	088-820-1115	088-822-1835	○	無休
高知みらい科学館	780-0842	高知市追手筋 2 丁目 1-1 オーテピア 5F	088-823-7767	088-824-8224	○	月（祝日開館）※ 2018年7月24日開館予定
香南市文化財センター	781-5453	香南市香我美町山北 1553-1	0887-54-2296	0887-54-2433	○	土日祝（第4日曜は開館）※
古渓城	786-0002	高岡郡四万十町見付 665	0880-22-1654		×	事前申込
子どものための民具体験館	780-0861	高知市升形 5-29	088-822-1764	088-822-1843	×	事前申込
金剛頂寺霊宝館	781-7108	室戸市元乙 523	0887-23-0026	0887-23-0726	×	事前申込
佐川町立佐川地質館	789-1201	高岡郡佐川町甲 360	0889-22-5500	0889-22-5511	○	月（祝日の場合は翌日）※
佐川町立青山文庫	789-1201	高岡郡佐川町甲 1453-1	0889-22-0348	0889-20-9009	○	月（祝日の場合は翌日）※
四国自然史科学研究センター	785-0023	須崎市下分乙 470-1 新荘公民館内	0889-40-0840	0889-40-0840	○	土日祝 ※
四万十市立郷土資料館	787-0000	四万十市中村 2356 為松公園内	0880-35-4096	0880-35-4096	○	リニューアル準備のため一部オープン中
四万十町立美術館	786-0004	高岡郡四万十町茂串町 9-20	0880-22-5000	0880-22-5001	×	月祝 ※
定福寺宝物館	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0301	0887-74-0302	○	※
ジョン万次郎資料館	787-0337	土佐清水市養老 303	0880-82-3155	0880-82-3156	○	無休
宿毛市立坂本図書館	788-0001	宿毛市中央 2-7-14	0880-63-2654	0880-63-0155	○	月祝 ※
宿毛市立宿毛歴史館	788-0001	宿毛市中央 2-7-14	0880-63-5496	0880-63-1319	○	月（祝日の場合は翌日）※
須崎市立図書館	785-0013	須崎市西古市町 6-15	0889-42-2141	0889-42-2141	×	月祝 ※
創造広場「アクトランド」	781-5233	香南市野市町大谷 928-1	0887-56-1501	0887-56-1506	○	無休
竹林寺宝物館	781-8125	高知市五台山 3577	088-882-3085	088-884-9893	○	無休
津野町立図書館かわうそ館	785-0202	高岡郡津野町姫野々 433-2	0889-55-3001	0889-55-3555	○	火祝・第 4 金 ※
津野町立図書館虎太郎館	785-0501	高岡郡津野町力石 2870	0889-62-3555	0889-62-3555	○	火祝・第 4 金 ※
特定非営利活動法人 黒潮実感センター	788-0343	幡多郡大月町柏島 625	0880-62-8022	0880-62-8023	○	土日（10～6月）・月（7～9月）
特定非営利活動法人 地域文化資源ネットワーク	781-5102	高知市大津甲 562-1-303	080-6721-3074		○	
土佐市立市民図書館	781-1101	土佐市高岡町甲 2177	088-852-3333	088-852-3484	○	月祝・月末金 ※
土佐豊永万葉植物園	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0301	0887-74-0302	○	※
豊永郷民俗資料館	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0305	0887-74-0302	×	※
中岡慎太郎館	781-6449	安芸郡北川村柏木 140	0887-38-8600	0887-38-8601	○	火（祝日の場合は翌日）※
中土佐町立美術館	789-1301	高岡郡中土佐町久礼 6584-1	0889-52-4444	0889-52-2343	○	月（祝日の場合は翌日）
中村時計博物館	783-0011	南国市後免町 1 丁目 5-26	088-864-2458	088-864-5249	○	無休（日祝は要確認）
日本ウミガメ協議会 室戸研究基地	781-7101	室戸市室戸岬町 701	0887-22-1685	0887-22-1685	○	不定休
認定特定非営利活動法人 高知こどもの図書館	780-0844	高知市永国寺町 6-16	088-820-8250	088-820-8251	○	火木 ※
平和資料館草の家	780-0861	高知市升形 9-11	088-875-1275	088-821-0586	○	水日祝
民間非営利団体 高知文化財研究所	782-0016	香美市土佐山田町山田 1645	0887-52-0736	0887-52-0736	×	
室戸ジオパーク推進協議会	781-7101	室戸市室戸岬町 1810-2 室戸世界ジオパークセンター内	0887-22-5161	0887-23-1618	○	無休
安田まちなみ交流館・和	781-6421	安芸郡安田町安田 1674-1	0887-38-3047		○	水（祝日の場合は翌日）幕末維新博企画展開催中は無休
横山隆一記念まんが館	780-8529	高知市九反田 2-1 かるぽーと内	088-883-5029	088-883-5049	○	月（祝日開館）※
龍河洞博物館	782-0005	香美市土佐山田町逆川 1434	0887-53-4376	0887-53-2145	○	無休
藁工ミュージアム	780-0074	高知市南金田 28 アートゾーン藁工倉庫	088-879-6800	088-879-6800	○	火（祝日の場合は翌日）※
わんぱーくこうちアニマルランド	780-8010	高知市桟橋通 6 丁目 9-1	088-832-0189	088-834-0929	○	水（祝日の場合は翌日）※

こうちミュージアム ネットワーク通信 第16号　平成30（2018）年3月30日発行

■編集　こうちミュージアムネットワーク会報誌編集担当者会
（高知県立美術館、高知県立文学館、高知県立歴史民俗資料館、高知みらい科学館、四国自然史科学研究センター、横山隆一記念まんが館）

■事務局　高知県立高知城歴史博物館　■電話　088-871-1600　■http://moak.jp/network/konet_home.html